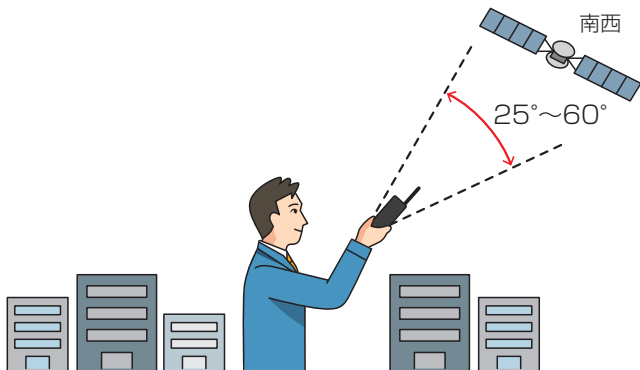
ソフトバンク衛星電話
ご使用時の注意

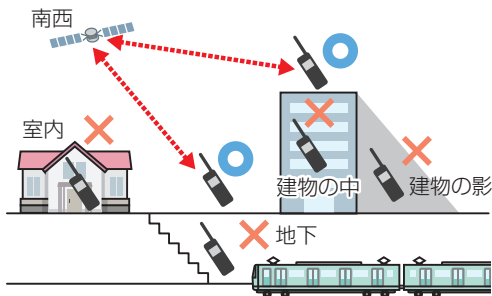
目次

衛星電話と携帯電話の違い

衛星電話は一般的な携帯電話と違い、地上にある基地局では無く、宇宙空間に浮かぶ通信衛星と電波の送受信を行います。
そのため、使用時は電話機のアンテナを正しく衛星に向ける必要があり、電話機と通信衛星との間に建物などの障害物がある場合は通話できません。
山や海上など周囲に基地局が無い場所や、自然災害などで基地局が稼働できない場合でも、衛星電話なら通話が可能です。

1 通話できる場所を探す

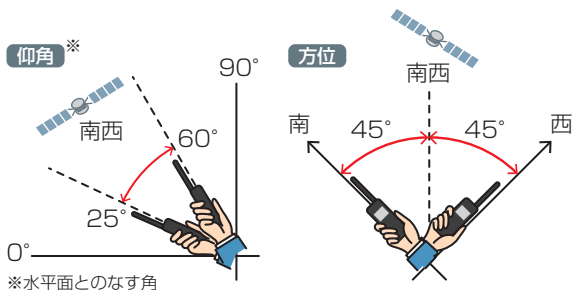
通信衛星は南西方向、仰角 25°～60°の位置にあります。
衛星の方向に障害物が無い場所を探して移動してください。

衛星からの電波が届かない場所ではご利用いただけません。

南西
室内
建物の中
建物の影
地下

2 アンテナを通信衛星に向ける

通信衛星の方向に、電話機のアンテナを正しく向けることが重要です。

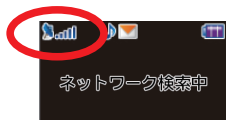
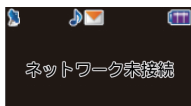
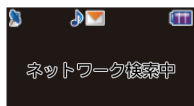
1　電話機のアンテナを一杯まで伸ばす

2　電話機の電源をオンにする

3　アンテナを衛星に向ける

3 電波の受信状態を確認する

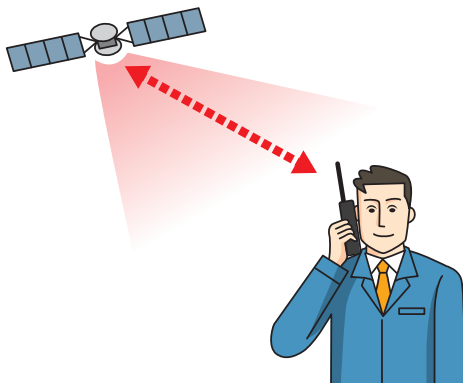
安定した通話のために、十分な受信強度が確保できていることを確認します。

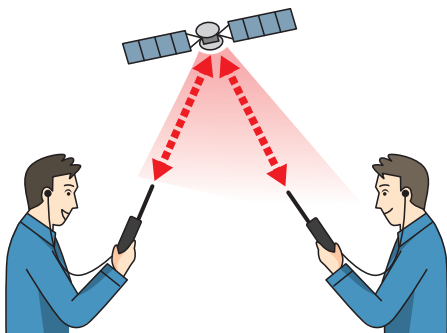
1　電話機のディスプレイでアンテナバーが立っていることを確認する

※アンテナバーが立っていないときは電話機の向きを調整してください。

2　ディスプレイに「Thuraya Japan」と表示されるまで待つ

この表示になったら通話できます。

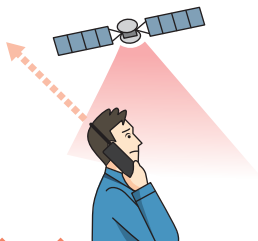
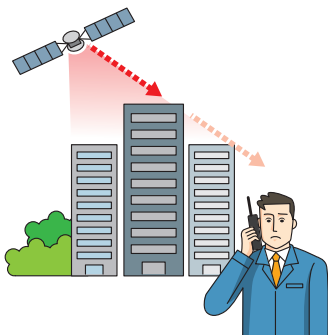
※初めての使用時は、衛星との接続に時間が掛かることがあります。
※数分待っても「Thuraya Japan」と表示されないときは、電話機の電源を入れ直してください。
※右の画面表示のときは、衛星との通信が途切れる恐れがあります。アンテナバーが立ち、「Thuraya Japan」と表示される場所（電波状態の良い場所）に移動してください。

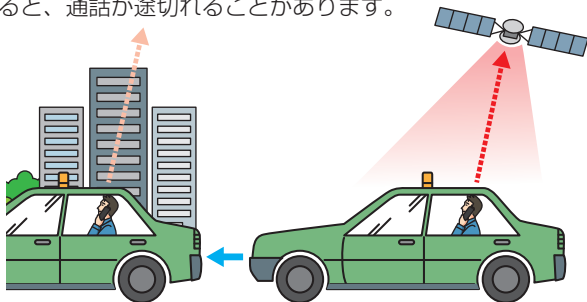
4 正しい通話姿勢をとる

通話中もアンテナを衛星に向け続けることが重要です。

オススメ イヤホンを使用しましょう

アンテナの向きと角度が保持しやすく、電波の状態を確認しながら通話できるので、通話が途切れる可能性を低くできます。

こんなときは正しく通話できません

アンテナが衛星の方向を向いていない

※アンテナが体の陰になってしまうことがあります。

アンテナと衛星の間に障害物がある

移動しながら通話している

移動中に障害物の陰に入ったり、アンテナの向きが変わったりすると、通話が途切れることがあります。

5 電話をかける

注意 衛星電話では、発信から相手先電話の呼び出し音が鳴るまで最大 20 秒かかります。

携帯電話･固定電話から衛星電話にかける

携帯電話･固定電話（日本国内）→ 衛星電話（日本国内 / 海外）

＋または 010-88216-XXXX-XXXX
（固定電話の場合は「+」を入力できないので「010」のみ）

携帯電話・固定電話（海外）→ 衛星電話（日本国内 / 海外）

＋または国際電話アクセス番号 -88216-XXXX-XXXX
※ 国際電話アクセス番号は、発信者のいる国によって異なります。
（日本の場合は「010」）

携帯電話 / 固定電話 /PHS から衛星電話にかける前に

事前に、携帯電話 / 固定電話 /PHS から国際電話をかけられるように設定しておく必要があります。
詳しい設定方法は、各電話機の取扱説明書を参照していただくか、各電話会社へご確認ください。

衛星電話から携帯電話･固定電話にかける

衛星電話（日本国内）→ 携帯電話・固定電話（日本国内）

- ＋または 00-81- 相手先電話番号（最初の「0」は除く）
- 090-XXXX-XXXX（通常のかけ方も可能）

衛星電話（海外）→ 携帯電話・固定電話（日本国内）

＋または 00-81- 相手先電話番号（最初の「0」は除く）

衛星電話（日本国内 / 海外）→ 携帯電話・固定電話（海外）

＋または 00- 国番号 - 相手先電話番号（最初の「0」は除く）

※ 国番号は国によって異なります。（日本の場合は「81」）

衛星電話から衛星電話にかける

衛星電話（日本国内 / 海外）→ 衛星電話（日本国内 / 海外）

- ＋または 00-88216-XXXX-XXXX
- XXXX-XXXX（88216 を除く 8 桁）

「+」の入力方法

「0」ボタンを長押しします。